

平成27年度

元町だより

京都市立元町小学校

校長 佐原 裕子

TEL 491-7690

FAX 491-7921

11 月臨時号

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/motomachi-s>

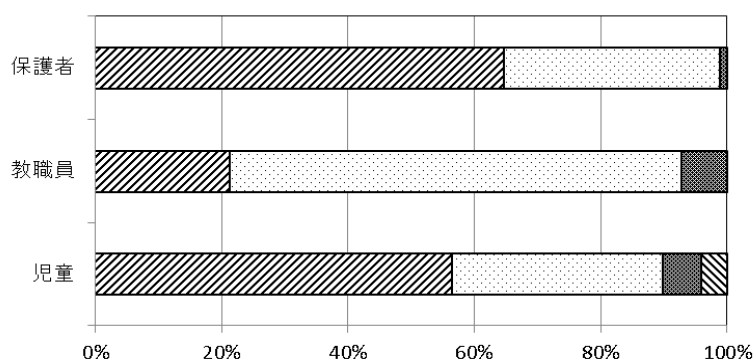


晩秋の候、保護者の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は、本校教育にご理解・ご協力をいただきましてありがとうございます。

先日は、学校評価のアンケートにご協力いただきましてありがとうございました。結果がまとまりましたので、お知らせさせていただきます。

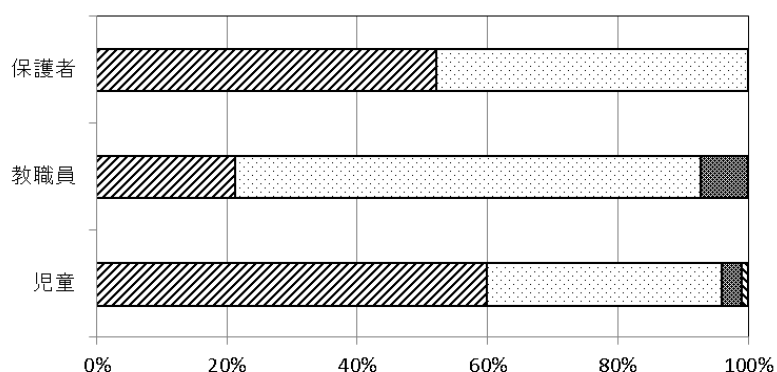
| | | |
|---|-----------|-----------|
| 凡 | よくできている | だいたいできている |
| 例 | あまりできていない | できていない |

1. 楽しく学校生活を送っている



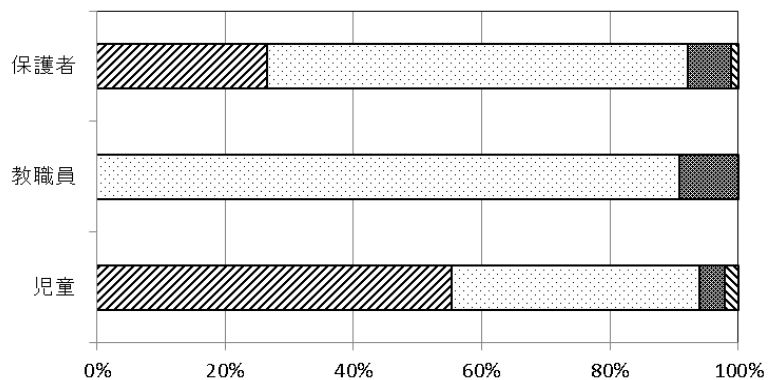
保護者は、お子たちの話などからおおむね楽しい学校生活を送っていると回答されていますが、教職員は、学校での様子を見て、楽しくないと回答している割合が若干みられます。楽しくない要因をさぐるため、「あのねタイム」以外にも、子どもたちの行動の様子や友達関係などに常に目を配っていきたいと思います。ご家庭でもご協力をお願いします。

2. 友達となかよくしている



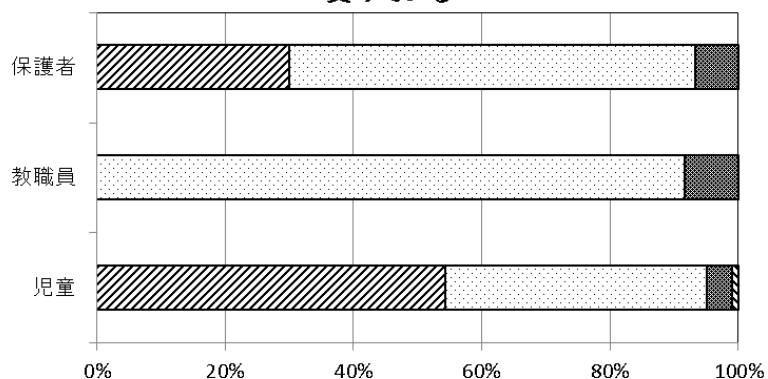
これも保護者は、お子たちの話などからおおむね楽しい学校生活を送っていると回答されていますが、教職員は、学校での様子を見てなかよくできていないと回答している割合が若干みられます。クラス替えがないため、固定された人間関係の中で、お互いが認め合い、支え合うよう担任もクラスづくりに留意しています。子どもたち一人一人の声を大切にした指導、支援をしていきたいと考えています。

3.学習がよくわかっている



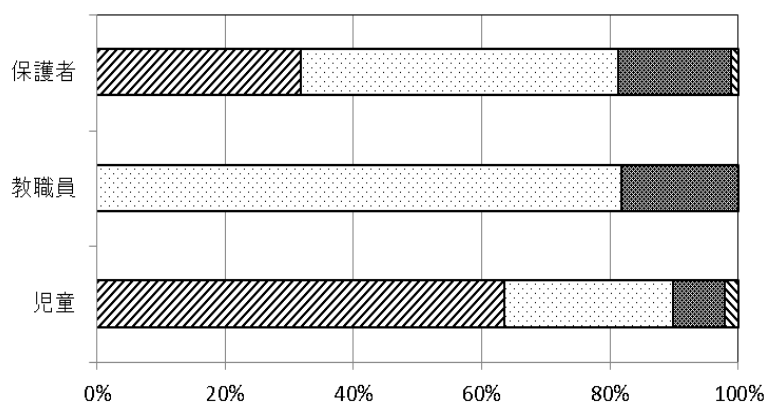
児童は、おおむねわかっていると回答している割合が多いですが、教職員は、学習内容の理解について厳しい評価をしています。授業の中で、「なぜ」「どうして」という投げかけを取り入れて、児童に考える場を与えることが、内容の定着には効果的であり、少人数集団をいかした個別の支援も含めて、より学力の定着が図れるように努力していききたいと思います。

4.学習規律を守り、学びの場にふさわしい態度で授業を受けている



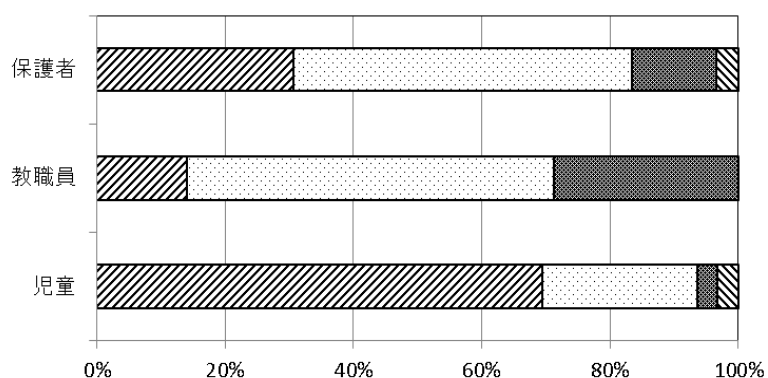
児童は発表などがしっかりできていると回答しているが、教職員は、発表以外にも、聞く・話すなどの授業にかかわる態度全般を考えて回答しているため、認識に違いが出ていると考えられます。保護者の方々も、参観や学校行事の時には、ぜひとも、お子たちが授業を受けている様子をご覧いただき、お子たちに声かけをしていただけるとありがたく思います。

5.家庭学習を毎日する習慣が身についている



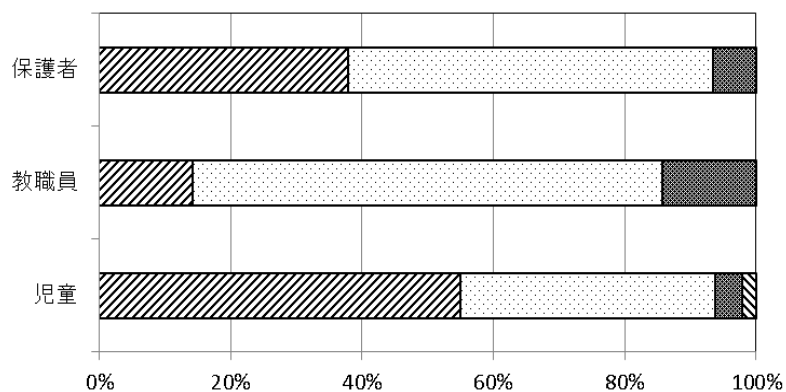
家庭学習をどうとらえるかによって、児童と保護者・教職員の間で意識のずれが見られます。児童は、家庭学習は宿題と受け止めて、回答しているのに対して、教職員や保護者は、授業の復習・予習、それに自主学習を含めて家庭学習と位置付けているように思います。この季節、読書も含めて家庭での学習を15分×学年分確保してほしいと思います。

6.すすんであいさつができている



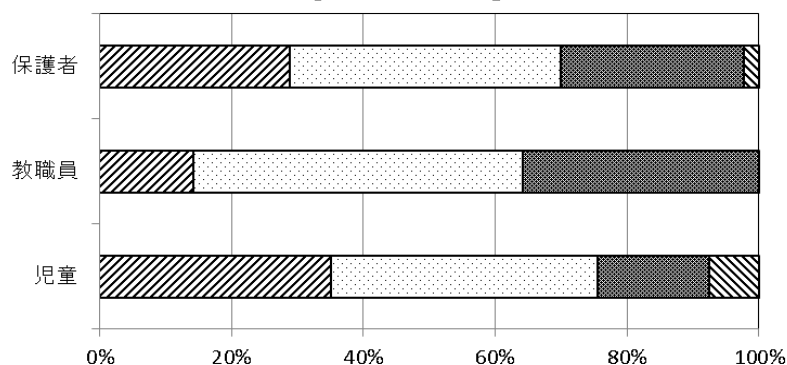
あいさつについて、朝や帰りのあいさつのみをとらえて回答している児童に対して、保護者・教職員は、あいさつ全般をとらえて回答しているようで、認識のずれが見られます。場に応じたあいさつは、学校でも指導していますが、気持ちよくあいさつができるようにしていきたいと全教職員が力を合わせて考えています。ご協力をお願いします。

7.ルールやマナーを守ろうとする規範意識が育っている



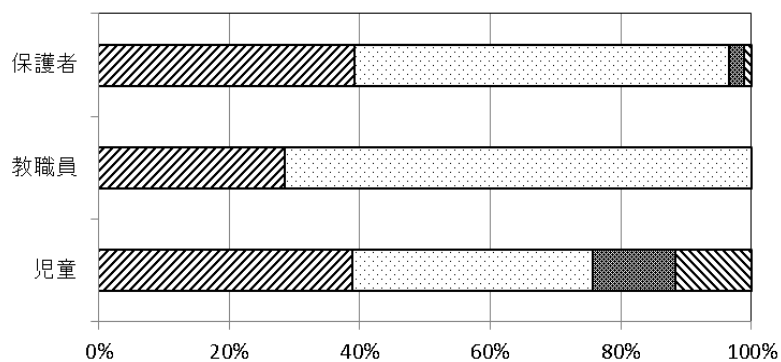
昨今、規範意識については、話題になることが多いのですが、学校という小さな社会の中で子どもたちは、おおむねルールを守ろうとしています。しかし、「わかっているもつつい...」という場面に高学年でも出くわすことがあります。どの子もルールやマナーの大切さがわかり、守れるよう、学校・地域と家庭が協力してあたたかく見守っていききたいと思います。

8.早起き・早寝など健康で望ましい生活習慣が身についている



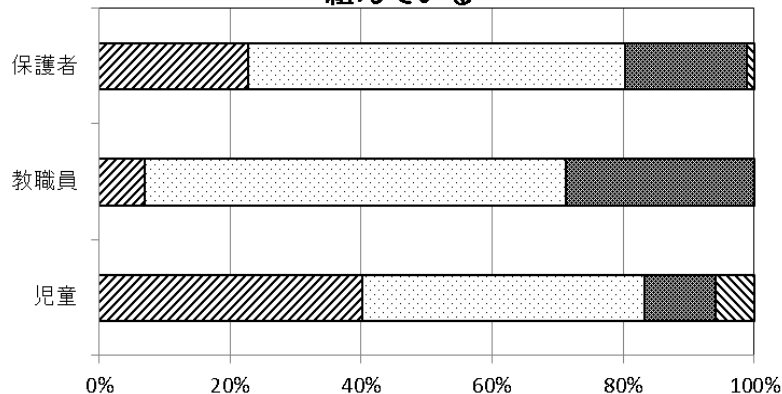
近年、早寝・早起き・朝ごはんの大切さが言われています。1年生から6年生までが通う学校では、生活リズム調べなどを見ても学年によってちがいが見られます。子どもたちの姿をきちんととらえて、健康な生活ができるよう地域・家庭・学校で連携を図っていききたいと思います。

9.教職員は、子どものことに親身になって対応している



教職員に比べて保護者・児童、とりわけ児童の評価が厳しいものになっています。日頃から子どもたちに寄り添いながら、見ていく必要性を感じ、子どもたちが安心して登校でき、教室が心の居場所としていられるよう、教職員も子どもと対話を欠かさず、学校生活を充実させていきたいと考え取り組んでいます。不十分なようです。ご家庭でもお子たちのことで気にかかることがありましたら、ご相談ください。

10.難しいことでも失敗を恐れず、前向きに取り組んでいる



この項目では、児童・保護者・教職員の順に評価が厳しくなっています。本校では、自己肯定感を大切にして積極的にチャレンジする姿勢を子どもたち一人一人が身につけてほしいと願っています。先日の学芸会でも自分のセリフをどう言えばよいか、自分で考え、振付を相談しあう姿があちこちで見られました。今後もこういう姿勢を大切にしていきたいと思っています。

自由記述より

○あいさつができていないので、全校で取り組んでほしい。子どもたち同士のあいさつが特にできていない。

⇒学校はもちろん、地域の見守り隊の方も朝に子どもたちにあいさつをしてくださっていたり、PTAでも年に数回「あいさつ運動」に参加していたりしていただいております。「おはようございます」だけでなく、状況に応じた適切なあいさつも指導していきたいと思えますのでよろしくお願いします。子どもたち同士のあいさつについても、子どもたちの様子を観察する中で折に触れて指導をしていきたいと思えます。

○保護者が参加する行事の日程変更はできるだけさけていただきたい。

⇒申し訳ございません。年度当初に各月の行事が均等になるように組んでいますが、その後、年度途中で入ってきた行事もあり、日程が厳しくなる月もあります。そのため、変更となる場合もありますが、今後できるだけ変更がないよう心がけますとともに、やむなく変更になる場合は、できるだけ早くお知らせしたいと思えます。

○部活動で人数がそろわないので、出場できないことがあった。日頃の練習の成果を発揮するための機会であるので、参加できる方策を考えてほしい。

⇒本校は児童数が減少し、それに伴い、部活動に参加する児童の数も減ってきています。ゲームを構成する人数が多いスポーツ(サッカーなど)では、チームが組めず、子どもたちも残念な思いをしていることも事実です。ただ、人数が少なくても、チームとして練習を重ね、チームワークを培うことは大切だと思えます。チーム規定が厳しい全市大会などは無理かもしれませんが、今後、近隣の学校などと日程が合えば、練習試合等ができればとも考えています。

○後期にも授業参観がもっとあればよいと思う。

⇒学校では、月に1回程度、保護者の皆様がご来校していただく機会を設けています。普通の参観の他、保護者の方が好きな時間に来ていただける自由参観日も設けています。今後、年度当初に年間計画を策定するときに、参観の日などを決定する際に考えていきたいと思えます。

※他にもいろいろご意見がございましたが、学校全体で考える問題ではなく、個人や学級の問題として書かれているご意見でしたので、割愛させていただきました。

全体の考察

○児童・保護者・教職員の間で、実現度のとらえに大きなちがいが出ている項目が多かったです。学習の理解度については、教職員は、自分で説明でき、問題が解ける力の育成を大切に考えています。また生活面でも、規範意識などをより徹底して身に付ける必要性を大人は感じている結果であると考えます。学校と家庭が連携し、子ども達に、より深くきめ細かに関わっていく必要があります。

○今後、自己肯定感を高め、何事にも自信を持って臨める態度をあらゆる教育活動の場で意識して取り組んでいく必要を考えています。また、一方で学校が、子どもたちの願いや思いをくみ取り、安心して学校生活が送れるよう支援していく必要性も感じています。